

「子どもの力を最大限に引き出す学び」の実現に向け、吉川市教育委員会、埼玉工業大学（深谷市）、NTT東日本埼玉南支店の3者は8日、埼玉大と同市立旭小学校（栗原元一校長、児童数171人）を情報通信ネットワークで結び、同大の保有する専門知識を遠隔授業・配信する実証実験を行った。

SINETと呼ばれるこの学術情報ネットワークは、全国の大学、研究機関などの学術情報基盤として、国立情報研究所（NII）が構築し、運用しているもの。

大学や研究機関などに対して、先進的なネットワークを提供することも、多くの海外研究ネットワークと相互接続している。

吉川市立旭小×埼玉大×NTT東日本 遠隔授業で子の力引き出せ



この日は3年生〜6年生の児童たちが体験した。このうち、公開された5年生（33人）の授業では、1人1台のパソコンが全責に準備され、同

小からSINET経由で同大の学習コンテンツへ接続。大学と小学校の新たな連携にチャレンジした。

児童たちは松田智裕准

楽しみながらパソコンを操作する児童たち＝吉川市南広島の市立旭小学校

教授の進行により、興味津々でパソコンを操作。同大の研究成果等を小学生向けに分かりやすくカスタマイズしたもので、今回のタイトルは「マイクロビットで遊んでみよう」。児童同士はパソコンの画面が正面の大型スクリーンに合っているか、確かめながら操作を続け、楽しんでいた。

栗原校長はこのシステムについて「コロナで休校になっても学校が休みでも、授業を続けられ、学びを止めない。これから必要な学習であり、大変有意義な体験となった」と話している。

（横江初太郎）

『埼玉新聞』2020年12月12日付12面<地域面>